第２号様式（第４関係）

令和６年１１月１５日

調布市議会議長　井　上　耕　志　様

提出者　調布市議会副議長　　内藤　美貴子

視察等共通部分報告書

下記のとおり，視察（研修・~~視察研修~~）を実施いたしましたので，視察等個別部分報告書（第３号様式）を添えて報告いたします。

記

1　実施名称（テーマ）

第１９回全国市議会議長会研究フォーラムｉｎ盛岡

2　実施期日（期間）

令和６年１０月９日（水）・１０日（木）

3　実施場所（視察先・研修会場）

トーサイクラシックホール岩手（岩手県盛岡市）

4　実施目的

全国の市区議会議員が一堂に会し，共通する政策課題等についての情報や意見の交換を行い，地方分権の時代にふさわしい議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資することを目的とする。

5　参加者の氏名

井上耕志，内藤美貴子，鈴木ほの香，田村ゆう子，山根洋平，田中謙二，榊原登志子，澤井慧，丸田絵美，宮本和実，鈴木宗貴，大須賀浩裕

6　実施結果（~~視察概要~~・研修概要）　別紙のとおり

7　その他　特になし

8　実施結果に対する所感，意見等

視察等個別部分報告書のとおり

調布市議会
-6.11.15
収第2290004号

研修概要

第１９回目を迎える全国市議会議長会研究フォーラムが盛岡市の「トーサイクラシックホール岩手」で令和６年１０月９日（水）から１０日（木）まで開催された。全国から市区議会議員が出席し，「主権者教育の新たな展開」をテーマに活発な議論が繰り広げられた。

１　第１日目（１０月９日（水）午前１１時から午後４時３０分まで）

(1)　ビデオメッセージ

衆議院議員（第９９代内閣総理大臣）　菅　義偉　氏

(2)　パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

ア　コーディネーター

井柳　美紀　氏（静岡大学人文社会科学部法学科教授）

イ　パネリスト

土山　希美枝　氏（法政大学法学部教授）

越智　大貴　氏（一般社団法人 WONDER EDUCATION　代表理事）

渡辺　嘉久　氏（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）

遠藤　政幸　氏（盛岡市議会議長）

１日目には、全国市議会議長会会長の坊恭寿氏から主催者あいさつがあり，その後，衆議院議員（第９９代内閣総理大臣）の菅義偉氏からのビデオメッセージが上映された。

パネルディスカッションでは，静岡大学人文社会科学部法学科教授の井柳美紀氏がコーディネーターを務め，地方議会が行う主権者教育について具体的な取組を行ったパネリストが取組の内容や成果，課題を報告した。

土山希美枝氏（法政大学法学部教授）は，地域社会の様々な争点を提起・議論して何らかの意思を形成することが議会の持つ政策過程とし，その場を市民や若き市民にも開いていくことが重要と述べた。

越智大貴氏（一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事）は，日本財団による１８歳意識調査（2024）の結果を引用し，若者の「政治に関心がないから選挙にいかないというより，どうせ何も変わらない」という意識傾向が課題でないかとし，議員と若者とのコミュニケーションを活性化し，「子ども・若者と何かしていく」という視点が重要でないかと述べた。

渡辺嘉久氏（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）は，高校生向け授業で実施したアンケート結果を紹介し，自身の意見が活かされ，議会や行政がそれを実現してくれるとの体験をすることが投票に繋がると述べ，学問的に知識を入れるのではなく，自分たちの意見で世の中は変えられるという経験を積むことが重要と述べた。

遠藤政幸氏（盛岡市議会議長）は，盛岡市議会で実施した高校生議会について説明し，高校生議会を通し，若者が市政に関心を持ち，議員や政治を身近に感じてもらえたことが大きな成果だったと述べた。

２　第２日目（１０月１０日（木）午前９時から午前１１時まで）

(1)　課題討議

「主権者教育の取組報告」

ア　コーディネーター

河村　和徳　氏（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

イ　事例報告者

白鳥　敏明　氏（伊那市議会前議長）

諸岡　覚　氏（四日市市議会議員（第 83 代議長））

服部　香代　氏（山鹿市議会議長）

２日目には，課題討議が行われた。東北大学大学院情報科学研究科准教授の河村和徳氏がコーディネーターを務め，主権者教育の取組を行った自治体の議長や前議長がそれぞれ事例報告を行った。

白鳥敏明氏（伊那市議会前議長）は，伊那市議会で行われた高校生の議会傍聴と意見交換について説明し，高校生から好意的な感想や「将来政治家になりたい」という頼もしい意見があったことを述べた。

諸岡覚氏（四日市市議会議員（第 83 代議長））は，四日市市議会で実施した若者を対象とした出張意見交換会「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」について説明した。また，議員も若者も一人一人違う中，一人一人の声を聴いて吸い上げる姿勢を議会が見せることによって，有権者が政治に目を向けるのではないかと述べた。

服部香代氏（山鹿市議会議長）は，山鹿市議会で実施した小学生へのシチズンシップ教室について説明した。その中で訪れた学校では議員に会ったことがない児童がほとんどであり，実際に議員に会うだけでも政治に触れる体験になっているのではないかと述べた。

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	井上耕志
1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡		
2　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		

（1）パネルディスカッション　「地方議会の課題と主権者教育」

投票率の低下や無投票当選の増加，議員の性別や年齢構成の偏りなどを課題ととらえ，「主権者教育の新たな展開」と題してお話をされた静岡大学人文社会科学部の井柳美紀氏の講演に意義を感じたので，こちらで少しまとめておくこととする。井柳氏は現在の地方議会が抱えている課題を先述のようにまとめられていたが，その処方箋として議会に対する関心を高め，理解を深める主権者教育を一層推進すること，いわゆる出前講座や模擬議会など議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を講ずることを挙げられていた。

本市における市議会議員選挙では無投票はなく，性別や年齢構成の偏りは特に見受けられないので，投票率の向上に関して考察していくと，まさに氏が主張されている主権者教育の推進と出前講座等の取組に関してはさらに拡充していく必要性を感じている。

本市議会では現在，11月の開催で19回目となる議会報告会を実施しているが，その実行委員会の中でもマンネリ化しつつある議会報告会の持ち方をどのように改善していくのかの議論を進めているなか，市内中学校や高校への主権者教育の出前講座や各種イベント時に報告会を行うなどのコラボレーション企画についても議論が進められてきたところであるが，相手先との調整などに課題があり，現在に至っている。一朝一夕にこうした課題を解消していくことは難しいととらえているが，時間をかけながらも各主体との調整を行いつつ本市議会としての独自な主権者教育の実現を目指していく必要性を感じている。

（２）課題討議

「主権者教育の取組報告」

パネルディスカッションの項において，本市議会独自の主権者教育の必要性について記載したところであるが，指をくわえていたわけでもない。本市議会では，議会事務局に依頼のあった議会への出前講座依頼を市議会として受け，市内５か所の放課後遊び場事業や学童保育を行っている小学校にて議員の仕事についてこの夏休み期間で講座を開催してきたところである。開催頻度や対象人数などに関しても，今後各小学校へのアプローチを行っていくことによって拡大を行っていくことを検討したい．

一方この本市議会独自の取組は小学生を対象とした内容であり，今回の取組報告において取り扱われた伊那市議会・四日市市議会・山鹿市議会の内容では，市内中学校・高校へのアプローチについて触れられていた。議会として各高等学校へ直接訪問し規格の説明を行う方式，また教育長とのやり取りを行った上での公聴会への協力依頼など，具体的な方法論に関しても伺うことができ，理解を深めることができた。

本市議会としても，このような先進事例の実践を行うとともに，現在取り組みをスタートさせた小学校の子どもたちへのアプローチと合わせて，子どもたちの感想を聞くことができるとりまとめの方法などについても検討を行い，10 年後の有権者がより興味を持てる主権者教育の在り方について議論を深めていきたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

文中に記載。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	内藤　美貴子

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第19回全国市議会議長会研究フォーラム
テーマ：「地方議会の課題と主権者教育」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

■パネルディスカッション

○主権者教育の新たな展開　　井柳 美紀氏

昭和 22 年の教育基本法(第 8 条)には、「良識ある公民たる必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。」とある。

また、文科省は、昭和 44 年に「高等学校における政治的教養と政治的活動について」通知を出している。それには、現実の具体的な政治的事象は内容が複雑であり教師自身も教材として十分理解するには困難なものがあり、教師の個人的な主義主張を避けて公正な態度で指導するよう留意することとされている。このことから、教育に政治を持ち込むには現実は難しいと理解される。その後、平成２７年に文科省は「高校生等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」通知が出された。それによると、政治や選挙の理解に加えて、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が有権者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」という内容で、つまり、生徒が政治に関心を持つように指導するようにと変わっている。

そのために、高校生向けの「主権者教育副読本」が作成され、教員に活用を促している。さらに、地方議会が進める主権者教育事例集も作成され、先進事例が紹介されている。投票率の低下や無投票当選の増加等が課題となっている中、いかに議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育をどのように推進していくのか。議会は教育する場ではないとされているが、今後あらたな展開が必要だと認識した。

○「誰がための主権者教育」か　　土山　希美枝氏

まず、冒頭に議会が「主権者教育」をするべきではない。と強調。

最近、多くの議会で高校生議会が開催されている。これについては、政治的関心の低下、議員のなり手不足、社会や政治に参加する経験や地域への愛着を感じる機会の不足、議会への不信、市民と自治体議会の間にある様々な隔たりを埋める処方箋として「時代を担う若者の教育」は魅力的に映る。高校側が、議会という場を使って、教育の一環として、また効果を高める機会として活用していくことは有益である。だからと言って、高校生議会を主権者教育と議会が称するのは、教育を軽く見ていないか。と力説。
議会にとっての高校生議会とは「若き市民の市民参加」を議会が得る場である。高校生といえば、すでに選挙権がある市民の集団である。高校生議会は教育する場なのか、若き市民の市民参加の場なのかで、議会の向き合い方が変わってくる。これらの話を伺って、議会と子供や若者、教育機関との関係や議会の本来の機能を再確認することができた。

○若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性
－13年間の主権者教育の取組みを通して－　　越智　大貴氏
日本財団が実施する18歳意識調査結果では、①政治に関心が特別低いわけではない。②自分で国や社会を変えられると思っていない。③社会のために役立ちたいとは思っている。したがって、政治に関心がないから選挙に行かないのではなく、どうせ変わらないから選挙に行かないという事ではないか。一方で、社会のために役立ちたいとも思っている。

(学校現場における主権者教育の現状)
学校での主権者教育は、選挙に関することや模擬投票体験が中心。その背景には、教育基本法第14条による政治的中立への配慮が謳われており、どうしても選挙についての知識や啓発を行う教育がメインになってしまう。
(１３年間の主権者教育の取り組みについて)
政治家との交流は、子ども達の政治意識の醸成に大きく影響することから、議員との交流機会を作っていくことが重要である。
これらの説明から、子どもや若者の意見が反映できるよう、議会の役割として、若者との交流の機会を増やし、自分の意見が聞いてもらえる、自分のアイデアが反映されるかもしれないといった機会を増やす取り組みが重要だ

と認識した。

○学校の未来、人口減の未来について　　渡辺　嘉久氏

50年後の学校は、人口減少社会、生徒数の減少、授業料収入も減る→どう賄うか。

人口減の未来はどうなるか→超高齢社会の到来、社会保障が増大し、現役世代の負担増。国債残高が増え続け、借金依存の財政。コンクリートの耐用年数は約60年であり、これらのインフラ維持・管理費が増加していく。こういった現状の中で、授業料を引き上げるのか、地域住民が授業料を負担するのか、借金で賄うのかの選択肢に対して、候補者の言っていることが自分の考えと似ているか、身近な問題で自分の投票先を決めることが重要である。そのためには、情報が左右するので、未来を決めるのに必要な情報を持っているのか、その情報は正しいのかの見極めも重要である。また、世の中で起きていること、これから起きることを考えるためにはどういう未来を生きたいか、こうありたいという未来のために何が必要か、自分の未来を創造することが重要である。

■課題討議：「主権者教育の取組報告」

○地方議会と主権者教育　　河村　和徳氏

主権者教育は、基本的にシチズン教育であるべき。シチズン教育とは、他人を尊重しながら、市民として社会に参加し、その役割を果たせるように、人々を教育すること。また、地域の社会的課題を認識し、社会を改善していく力を養う方向にもっていくべきであり、多様な意見があることを理解すること。しかし、現実には、制度の理解や一方的な知識が中心になっており、模擬投票の教育が重視されている。

また、選挙権年齢が18歳に引き下げられたが、18歳の投票率は高いが19歳は低くなる。自宅から通っている子のほうが投票率は高い。選挙と選挙後の連動性を理解させる必要がある。現在の主権者教育では、模擬投票は選挙の仕組みを学ぶ上で有効。政治に参加する方法は選挙ばかりではない。

政治参加には、署名活動、陳情活動、選挙運動を手伝う等がある。

このことから、若者が政治に関心を持つためには、意思決定の場に若者を参

画できるような取り組みや若者の声が直接届けられるような取り組みが重要だと思った。

○高校生の議会傍聴と意見交換会の取組　　伊那市議会　白鳥　敏明氏

伊那市議会では、平成30年の市議会議員選挙が無投票となった。このことから、議員のなり手不足、議会への関心を高めるための方策として、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等に企画が決定され、令和元年6月には高校生徒の議会傍聴、同年7月には同高校の生徒との意見交換会が実施された。意見交換会では、高校生から様々な意見や提案が出され、その後、意見交換会に参加した高校生から雨の日でも遊べる施設や子連れでも入りやすい店のマップ作成等、子育て環境の改善を求める請願が市議会に提出された。さらに、意見交換会で出された通学路の街灯増設の要望などが提出され議会としても現地確認を行い、執行部へ改善要望が提出されている。

意見交換会で出された意見に対しては、市議会としての検討結果や担当部署からの考えをまとめた報告書が作成されている。

高校生からの意見や要望等をみると、地域課題や若者が困っていること、若者目線での指摘もあり、やはり、若者の声を聴くことが大切であり、その若者の声をカタチにすることによって、議会を身近に感じていただき、政治参加に繋がっていくのではないかと考える。

文教委員会では、若者応援条例の制定に向けて、多くの若者(当事者)との意見交換を行い、率直なご意見や提案もいただいた。実感したのは、生きてきた時代や社会情勢が異なる中で、今の若者がどう感じて、何を求めているのかが想像もできない発言ばかりであったことから、高校生等の主権者教育の取組みにも生かしていきたい。

○あなたと議会をつなぐ　　四日市市議会　諸岡　覚氏

四日市市では、令和5年5月の議長選挙で公約した「ワイ！ワイ！GIKAI」の開催を実施。これまでの議会報告会やシティ・ミーティングの見直しがされ、対象を高校生や大学生等の若年層とした。

最初の開催は、中学校を対象とし、議会では常任委員会が中心となってグループに分かれてグループデスカッションを行った。開催後には、委員会を開

催し、デスカッションのテーマごとに中学生からの意見を整理し、今後の検討すべき課題を抽出して今後の論点を確認している。その後、所管事務調査報告書を作成し、生徒や教育委員会に提出している。また、生徒も本会議一般質問を傍聴。他の常任委員会では、生徒と議員で選挙ポスター作りも行っている。また、令和６年１月には高校生議会を開催し、テーマごとの委員会に分かれて意見交換を行ったり、本会議場で意見書の採決を行う。これらは、全て進行は高校生が行ったとのことだった。さらに、市議会だよりでは「子ども号」の発行も行っている。

これらの取組みを報告された際に、「主権者の皆さんに何か教えるのではない。こちらが学んで、一緒に考えていくことが大事。また、若者とひとくくりにしてはいけない。いろんな若者がいる。一人ひとりの声を吸い上げて、相手が望むことをカタチにする。それが主権者教育ではないか」と言われたが、議会として主権者教育に取り組む際のカギであると思う。

○山鹿市が取り組んだシチズンシップ教室　　山鹿市議会　**服部　香代氏**

山鹿市では、議員のなり手不足の問題や子どものころから最終的に意見を集約していく経験をしてもらいたいと、小学校でのシチズンシップ教室を実施。シチズンシップ教室で伝えたいことは、市議会について知る、議員の仕事を理解する、選挙の意義や投票の大切さがわかるようにすることである。出前授業では、村の動物たちと一緒に村長選挙を体験できる「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」という絵本を教材に使い、２人の議員が立候補。二人の話を聞いて、子ども達が自らの意志で選んでいき、投票していくというものである。子ども達からは、「一票が大切であること、真剣に考えて選挙で選んでいくんだと思った、議員がどんな仕事なのかわかった」との感想が寄せられている。今回、調布市議会でも、夏休み期間中に学童の子ども達を中心に、出前講座を開催した。○×ゲームの後に公園に設置してもらいたい遊具を選んでもらうというもので、実際に投票もしてもらった。今後は、山鹿市を参考にして、さらに充実した企画運営に取り組んでいきたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴木ほの香

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
全国市議会議長会研究フォーラム 「地方議会の課題と主権者教育」「主権者教育の取組報告」
2　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

各パネリストからの話の中では、「18歳意識調査」について言及があった。そこからは、「政治に関心がないから選挙に行かない」というよりも「どうせ変わらないから選挙に行かない」という傾向が示された。日本の低投票率は非常に根深い問題だと思うが、「選挙に行ってもどうせ変わらない」という感覚は今の若い世代に始まったことではなく、その親世代からずっと引き継がれてしまっているように感じている。自身も、「投票しても意味がない」「政治はどうせ変わらない」という諦めや失望を感じている中高年世代以上の方にたくさん会っている。

パネリストが言及していたように、「自分たちの行動で国や社会を変えられる」という感覚や成功体験を得ることが非常に重要であると思う。

市議会議員として、市議会として「主権者教育」を実施する上で、単に選挙や議会の仕組みを伝えたり、「選挙に行きましょう」というメッセージを伝えたりするだけでは、市民の行動変容を促すところまではなかなか行きつかないように思う。

長野県伊那市議会の取組は素晴らしいと感じた。議会からの一方的な発信ではなく、高校生との具体的な意見交換会を実施したり、議会傍聴をしていただいたり丁寧な取組をされたことが、その後高校生からの請願提出という行動にもつながったのだと思う。

また、高校生からの通学路の外灯増設の要望を委員会として現地確認されたそうだが、こうした具体的行動を議会側が起こすことが大事で、「意見を聞いて終わり」にしないことが高校生（市民）の「政治は変えられる」とい

う感覚をもたらすのだと思う。

調布市議会が行った出前講座は低年齢の子どもたちが対象であったため、対象年齢によってできることは違うが、年齢に応じた内容を考えながら「投票に行って変えられる」「政治は変えられる」という感覚をいかに実感を伴って感じてもらえるか、という点を念頭に主権者教育に向き合っていく必要がある。全国の他自治体が、この点においてどのような実践をしているか事例等を研究していくとともに、議会として行う主権者教育のねらい・目標を改めて議員間で話し合うことも大事であると思う。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

2に記載。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	田村ゆう子

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第19回全国市議会議長会研究フォーラム
ー主権者教育の新たな展開ー

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

投票率が年々低下し、特に若者の政治離れが深刻化している中で、政治を自分事として捉える、社会を変えるのは自分自身であるという意識をひとりひとりが持つための「主権者教育」の在り方が、今ほど強く問われているときはないと感じている。特に、低年齢の頃から教育や体験を通して自然と実感していくことが重要だと感じており、文科省の通知においても「現実の具体的な政治的事象も取り扱い（中略）具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」とあるが、残念ながら教育現場に政治話題を持ち込むことのハードルはまだまだ高い。そのような現状の中で、議会としてやれることが様々あるということを、今回のフォーラムを通して学んだ。

各地方議会からの取り組み報告では、一般質問の見学や子ども議会、出前講座などが紹介された。調布市でもかつては子ども議会が実施されていたが、教員や職員の負担が大きいという課題も踏まえ、現在は別のかたちでの開催へと変遷している。そのような課題がある中では、出前講座というかたちは今すぐ実践できる取り組みとしては非常に有益なものではないかと感じた。ただ、その際に注意をするべきは、パネリストからも言及があったが、「議員が“教育”をしないこと」。主権者、特に子どもたちに対し「教育」するという意識ではなく、学び合い、意見を聞き、議会で扱い市政に反映させることが議員としての立場であり役割であるという意識を持った上での「主権者教育」でなくてはならない。そのことを肝に銘じたい。

「政治のことをよく知らない私が投票をして、変な世の中になったらどうしよう」という想いから投票を嫌厭する学生が多い、という報告が非常に印象に残った。「選挙とは自分の未来を選ぶもの、自分の思うように投票して

良いはずが、自分の考えを“良し”と思えない、どこかに答えがあると思わせている大人の責任が大きい。」との問題提起には、考えさせられた。根本的な日本の教育の在り方も含め、大人側が改めないといけないことがたくさんあると改めて感じるエピソードだった。

私自身も一般質問において「子どもたちの意見が反映されるまちづくり」というテーマで主権者教育について取り扱ったが、子どもたちが政治を自分ごととして感じられるような取り組みを、今回学んだことを踏まえながら、調布市議会でも積極的に実施していきたいと思う。

最後に。今フォーラム内での問題提起として、投票率の低下と同時に、無投票当選の増加や性別や年齢の偏りなども挙げられた。私自身、初めて参加したが、あまりの男性率の多さに驚いた。同時に、居眠り、お喋り、途中退席、スマホ…参加者のあまりの意識の低さに唖然とした。子どもたちに主権者教育を行う前に、まずは議員自身が議員としての役割を再認識し、古いかたちの政治の在り方から脱却し、真摯に職責を全うすることのほうが先ではないかと強く感じたため、ここに言及する。自分自身も気を付けたいと思う。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

子どもたちや若者に政治を身近位に感じて貰えるような議会としての取り組みを考える。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	山根洋平

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
全国市議会議長会研究フォーラム
2　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
本年の研究フォーラムのテーマは主権者教育についてであった。パネルディスカッションと各自治体における取組事例の発表を受けた印象は、教育という言葉の響きから、何かを教え込むという姿勢で臨むのではなく、大人子ども関係なく対等な立場に立って学びあうという姿勢で取り組むことが重要であるということである。令和４年に成立したこども基本法の施行を受け、こども施策の策定等へのこどもの意見の反映の具体的な方法として、主権者教育の取組を活用できると考える。 住民自治について身近に感じる機会が限られる中、自分たちの住むまちのことを自分たちで決めるという基本理念を、現代の社会構造や人間関係の中でどのように実現するかについて、工夫をすることが求められているといえる。私はこの度の研究フォーラムを通じて、主権者教育はこの具体的な実現方法として良い機会であると考える。
3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）
調布市議会において、出前講座の依頼を受ける形で主権者教育の取組を行う機会があった。受け入れや実施体制の責任主体を設ける必要がある。現在は広報公聴機能を担う組織体として、広報委員会と市民への議会報告会実行委員会の組織があるが、これらを一元化し広報公聴委員会のような常任委員会とし、議会基本条例に記載している広報公聴の取組を担う責任組織として明確にすることで、今後の主権者教育の取組を一層進めていくことができるのではないかと考える。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	田中謙二

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第１９回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡
テーマ：「地方議会の課題と主権者教育」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

○成人年齢が引き下げられ、若年世代の政治離れをどう防ぐか。政治に携わる全ての者に突きつけられた課題である。

○パネルディカッション『地方議会の課題と主権者教育』では、コーディネーターに静岡大学人文社会科学部法学科井柳美紀教授をお迎えし、パネリストは法政大学法学部土山希美枝教授、一般社団法人 WANDER EDUCATION 越智大貴代表理事、読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局の渡辺嘉久氏、盛岡市議会遠藤政幸議長が登壇。

令和５年統一地方選挙のデータ提示があった。市議会改選定数 6,636 で立候補者 8,261 名。競争率 1.24(前回 1.20)、無投票当選者数 237 名、無投票当選率 3.6%（前回 2.7%）　と、全体的には議員のなり手不足を危惧する報告・総括がされた。

○気づき

選挙に行かないのは、「政治に興味がない」というよりは、「選挙に行ってもどうせ変わらない」となかば諦めているから。その一方で、「社会のために役立ちたいとも思っている」とのデータ提示があった。なるほど、「役立ちたい」という思いに我々議員がしっかり寄り添って、暮らしを、街を、よくしていくために、今まで以上に、我々自らが、彼ら彼女らに入り込んでいく努力が求められることを理解した。ここはしっかり意識していかなければならない。投票行動とは「こうありたい未来」を実現するための手法。「選挙に行こう！」との掛け声だけでは投票率は回復しない。何故投票行動が大事なのか、その意義を私達議員が熟考すべきであるとの指摘には納得。

また、法政大・土山希美枝教授の話は目から鱗だった。「主権者教育については、そもそも議会や議員が、広く言えば政府が主権者に向かって「教育す

ること」は果たして正しいのか。そもそも、教育は議会や議員の仕事ではなく、教育機関の仕事のはずである」この発言に多くの議員が納得した。確かに主権者教育について議員が取り上げる際、ややもすれば上から目線で「教育」を語るような意識がなかったか。大いに反省すべき点である。
一方、議員にしか出来ないことがある。現役議員として日頃の議員活動を有権者にわかりやすく語る・発信することが議員の重要な仕事であるはずだ。そのことが政治自体に興味を持っていただくことに繋がっていくはず。身近な政治が基礎自治体で行われていることを、とくに投票率が低い若い世代に知ってもらう努力が求められる。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

前回の調布市議会議員選挙では、定数 28 に対して立候補者 44 名。競争率 1.57。投票率 44.1%であり、立候補者数が大幅に増えたことは有権者に多くの選択肢を示せたという点で良かったが、その割に投票率は伸びなかったという課題が残った。一人一人の議員が「主権者教育をやるんだ」という目線ではなく、有権者と一緒に学んでいく姿勢をいかにつくっていくのかが重要である。その意味では、本年 7 月、初めての試みであったが、あそビバや学童クラブで行った出前講座は、議員が企画し積極的に参加でき、議会や議員の仕事を知ってもらう良い機会となった。今回の活動は子どもたちから親御さんへ伝わることも期待できるし、他の団体へも評判が伝播することも期待したい。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	榊原　登志子

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第19回　全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡
―主権者教育の新たな展開―
10月9日（水）
【パネルディスカッション】「地方議会の課題と主権者教育」
コーディネーター　井柳　美紀（静岡大学尋問社会科学部法学科教授）
土山　希美枝（法政大学法学部教授）
越智　大貴（一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事）
渡辺　嘉久（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）
遠藤　政幸（盛岡市議会議長）
10月10日（木）
【課題討議】「主権者教育の取組報告」
コーディネーター　川村　和徳　（東北大学院情報科学研究科準教授）
事例報告者　白鳥　敏明　（伊那市議会前議長）
諸岡　覚　（四日市市議会議員（第83代議長））
服部　香代　（山鹿市議会議長）

2　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
・「お酒を飲む席では、野球と政治の話をしてはいけない」このように教わった方もいるのではないだろうか。また、いまだにこの言葉を聞くことがある。この意味は、楽しい酒席の時間が崩れ、争いのもとになるからということらしい。では、いつ話すのかということであるが、共通の話題が好きな人が集まっている場ということになるが、よほどの関心がなければそのような場への参加することはないだろうから、いつでも政治の話題が出ても良いと常に思っている。一方では、興味や関心が無い方もいる。
　では、政治への興味や関心を持っていただくには何事にも先ず、興味を抱かせるためには「楽しそう」という気持ちにさせることではないだろうか。しかし、政治や公民など学校での勉強が「楽しい」、「楽しそう」と感じることは少ないと思うことから、興味が増えないのではないだろうか。文部科学省では、主権者教育を推進しているが学校の公教育だけでは、やはり、関心や意識を持って社会に参画するなどは、難しいのではないだろうか。では、政治や公民を家族で話す時間はあるだろうか。日頃から興味を持つことが必要であるから、家庭で話す機会が増えることは、政治への関心を持つチャンスの一つであると思うところである。
そして、私たち議員や議会はどのような主権者教育を行うのかということだが、日頃から市議会としての発信や意見交換の機会を増やすことではないだろうか。そのほかでは地域のイベントのお手伝いなどに市民が参加していただくことで地域と行政との関わりなどが勉強できるのではないかと思うことから、地域とのコミュニケーションを増やし、参加していたくことも大切であると考える。高校生の模擬議会や模擬投票を行っている議会が多いが、やはり、日頃の議会がどのような仕事をしているのかを発信していくことである。また、議員一人ひとりが発信を心がけていくかということが重要である。主権者教育も政治参加も国内外政治と地方自治が生活に密着していることへの関心を持ってもらうことは、一日にして成らずであるから、特に子どもたちへは分かりやすい議会を日頃から魅せていきたい。また、高校生には、政治参加をする素晴らしさを共感してきたい。
　パネルディスカッッションや課題討議の中で模擬議会などに参加した高校生のアンケート結果では、「身近な地域の課題解決が行えること」や「政治が密着

していることが理解出来た」等の結果が得られていることからも、議会が１回でも意見交換や模擬議会等を行うことが意識改革に繋がるということである。 　しかし、数日の数回では主権者教育は、出来ないと感じており、意識の変化なども難しいことからも本人の意思が表現できる年齢から自らが生きるということと政治の関係などを学ぶ機会を増やすための活動を進めるため、市議会として尽力していきたい。
３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等） ・小・中学校、高等学校のそれぞれの学生の意思調査をし、政治参加などへの弊害がどのようなことであるかなどラインアンケートを行う。 ・模擬議会や模擬投票の体験結果のアンケートを行う。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	澤井　慧

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

日程：令和６年10月9･10日
視察先：岩手県盛岡市
「主権者教育の新たな展開」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

①　基調講演
「人口減少社会における地域の未来図」をテーマに菅　義偉元内閣総理大臣からの基調講演を予定していたが、国会日程の関係で、ビデオメッセージとなった。

②　パネルディスカッション
「地方議会の課題と主権者教育」
最初にコーディネーターの井柳氏から、「主権者教育の新たな展開」として、議長会では地方自治法改正も踏まえた主権者教育の推進を決議しており、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどの課題を抱える地方議会は、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することが必要であり、出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に主権者教育に取り組む事例が広がっているとしている。

教育基本法の「政治的教育」について昭和　44　年の通知で「教師の個人的な見解や主義主張がはいりこむおそれがあるので慎重に取り扱うこと」としていたものが、平成　27　年の通知では「現実の具体的な政治的事業も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有するものとして自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」と変化してきたことを紹介しつつ、今、主権者教育の新たな展開が必要な時期となっていると問題提起している。
これを受けて、パネラーの一人である土山希美枝氏は冒頭、「議会は教育を主体とした機関ではないことから、議会は主権者教育を行うべきではない」という発言に会場全体がざわついた。
主権者教育の主体は 学校や教育委員会であり、議会はその主体や学生とどう連携するかであるから、「議会」が「主権者教育」していると称するのはやめませんかと指摘している。
各地で取り組まれている「高校生議会」での議員との直接の語らいは学生の刺激となることは認める一方で、「高校生に作文を朗読してもらい、大人の側からのコメントで締めくくる」のでは、「教え育てる」ことにはならない。学校側の「議会」を使った教育プログラムの存在、議会は高校生を若き市民（有権者）として受け止め、その声をどう政策に活かすかなど、関係者の真摯な取組が欠かせないと語った。
総務省主権者アドバイザーである越智大貴氏は「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」をテーマに、「WE　CITY（キッザニア風こどもによるまちの運営）」「こどもワークショップ（社会の課題について意見交換するワークショップ）」「こども議会（議員との交流会）」など　13　年間の主権者教育の取組を紹介した。その取組の中で「若者は政治や社会に関心が無いわけではなく、参加しても意味が無いと思っている。意見を聞いてもらえる、反映してもらえると感じられる機会を増やす必要がある」「学校現場における主権者教育において、政治的中立への過度な配慮があるので、議会は学校でもリアルな政治を扱いやすいように超党派で対応チームをつくるなど、役割を果たせる」「政治家との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響する」などの点を挙げた。

読売新聞の渡辺嘉久氏は取材経験の中で、高校生へのインタビューで「政治のことを知らないので、間違ってはいけないから、投票に行けない」との声があったと紹介されており、正解は一つと限らないのだから、「自分の希望する未来を考えてくれる人を選んではどうかと話した」と、若者に「政治」は「未来」、「政治とつながる、政治を考える」ことは「自分の未来を創造する」ことになると伝えていくことが大切と語った。

盛岡市議会議長の遠藤政幸氏は「盛岡市議会の取組」を紹介した。同議会では、平成 28 年に高校生議会の開催を検討し、平成 29 年 7 月に第 1 回を開催した。次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めることを目的として令和 4 年までに 4 回開催している。議員が盛岡地域の大学出向き、学生と意見交換を行う「もりおか mirai おでかけミーティング」では、議員がファシリテーターとなりワールドカフェ方式を採用して、学生と議員がテーブル移動しながら市政についての意見交換を行った。高校生議会に参加した高校生からは「市政に関心を持った」「議会の役割が 理解できた」などの感想が寄せれている。

③ 課題討議「主権者教育の取組報告」

■シチズンシップ教育とは

市民として社会に参加し、その役割を果た すために必要な知識や能力を身に付ける教育である。他人を尊重すること、 個人の権利と責任、人種・文化の多様 性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身につけることができる。

■主権者の理想と現実（東北大学大学院准教授 河村和徳氏）

理想

①主権者教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべき

②地域社会の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべき

③社会には多様な意見があり、多様な意見があることを理解する（ディベート）

現実

①知識の享受（制度の 理解）が中心、正解を教えようとする

②投票者重視 （模擬投票）の教育

③実施主体（教育委員会、選挙 管理委員会等）の連携の不十分さ

などの課題

を抱えている。

上記の課題について各市議会の取組事例が報告された。

■長野県伊那市議会「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」

同市では平成 30 年の市議会議員選挙が無投票となったことで、議員のなり手不足に危機感 を抱き、問題を放置せず同年 6 月に全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置、 若い人に議会への関心を高めるために、特に高校生を対象に議会傍聴、意見交換等の企画を決めた。傍聴は定例会一般質問の後、生徒 3、4 人と議員 3、4 人の小グループに分かれた意見交換を実施。

参加した議員の感想は「高校生の真剣に取り組む姿に感動した」「声を直接聞ける良い機会。今後も積極的に行っていきたい」、高校生の感想は「話しているうちに自分の意見を言うことができ、市の事をよく知ることができた」「議員さんに親身に話を聞いてもらえ、アドバイスももらえた」「将来、政治家になりたいと思った」など、双方とも肯定的であった。また、意見交換をきっかけに高校生から請願書や要望が出されるなど市政への参加意識が高まった。

■三重県四日市市議会「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」（ワイ＝Ｙ／Ｙｏｋｋａｉｃｈｉ：四日市／Ｙｏｕｔｈ：若者、２つのＹ）

同市は以前から開かれた議会として市民向けに「シティーミーティング」を実施してきたが、回を重ねるごとに参加者が固定、減少してきた為、令和 ４ 年から「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」を実施。

各常任委員会が地域の中学校・高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換を行う。将来的には各種業界団体、各種労働組合など幅広い対象との交流を目指したいとのこと。

また、同市では高校生議会も開催している。開催方法はテーマごとに委員会に分かれ、 意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行います。

■熊本県山鹿市議会「山鹿議会が取り組んだシチズンシップ教室」

同市では「開かれた議会になっていない」「住民の理解と関心が得られていない」「議員の なり手不足」などの課題を感じ、また、議員のスキルアップが必要であるとして、議会として小学校でのシチズンシップ教室を開催している。

内容は①市議会について知る②議員の仕事を理解する③選挙の意義や、投票の大切さがわかる、の３点。実施にあたっては教育委員会、学校や選挙管理委員会などと協議し、協力を依頼。また、教材として使う絵本「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」の読み聞かせボランティアとして市民を巻き込んだ。子どもたちからは「議員の仕事がわかった」「投票には興味がなかったけど、 投票の大切さを知った」「議員の仕事をしてみたいと思った」など、議会への理解が進んだとの反応があった。参加した市民ボランティアからは「議員の努力が見えた」「自分たちも選挙の意義や議員の仕事が理解できた」との反応 があり、子ども以外にも波及効果が大きかった。

３ その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田　絵美

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

「全国市議会議長会研究フォーラム」

～主権者教育の新たな展開～

2　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

将来の人口減少について考えた時、課題と考え方を整理していくと、どのように人口減少や高齢化、に対応をしていくかがますます問われていくことになる。自治の基本に則り、それぞれどのように暮らしやすいまちを作っていくか。政治的な取捨選択をしていくのか。そして、ここでどのようなことに取り組めるのか、施策の展開が問われていく。日本の子どもたちは諸外国に比べ政治的関心が薄く、自分で国や社会を変えることができないと感じている割合が高い。「政治に関心が無い」というより「どうせ変わらない」から選挙に行かないということが示された。また、家族や友人と政治や社会問題の話をすることも少ない。しかし、だからといって「社会のために役立ちたい」という子が少ないかというとそうでもないことがわかる。これは教育の問題というより、日本という国、その大人たちがそもそも風土的にそのような土壌を作り上げてきた結果であり、子どもたち自身の問題ではない。

政治とは本来どんな未来を思い描くか、政治とつながることは未来とつながることであり、自分自身が未来を考えることである。そんな観点から、次代を担う若者が積極的に課題を見つけ、取り組んでいくよう促すことが求められている。大学教授の「教育者でもない議員が、学校教育課程に則っていない活動で「主権者教育」を行うことが本来行っていいことなのか、という問いかけがあり、なるほどそう考えるものもっともと感じた。単に「投票率の向上」や「議会の紹介」「性別や年齢の偏り解消」、地方によっては無投票での当選などの課題もあり、その自治体によってそれぞれ抱えるものは違うが、それだけでなく、自分事として社会を見、考え、取り組む主権者を育成することでそれらの解消にも自然につながっていくことが本来求めるべきものなのではないかと思った。

課題討議

「主権者教育の取組報告」

各自治体で行っている主権者教育について、内容を紹介しながら、それぞれの目的・目標と現状など、取組についての報告があった。内容は対象によってさまざまであり、目標にするところも少しずつ違いがあるが、どこもし

っかりと取り組まれていた。今なぜ議会でシチズンシップ教育を考えるのか、学校の授業とは違った角度から、参加し、経験をすることが重要なのではないかということで実際取り組まれている。

学校の理解や協力が無ければ進まないこともあり、校長から下には降りていかない事や、教育プログラムが立て込んでいるため、授業以外の時間を捻出するのが難しい、など、時間がかかるのが現状のようだが、場所や足（交通移動の方法=バス代）をこちらで持つから来て、とか、とりあえず教育庁から巻き込んでいく、などのアプローチをしているようだ。

政治に参加するということは選挙で投票するということではなく、選挙で投票することの意味と選挙後、その政治家がどのように発言し、それによってどう変わっていくかということが重要という点、また、自分の意見や意思をどう重ねて考えるか、前段で記載の「どうせ変わらない」という若者、子どもたちの意識を変えていくことも含めて考えていかなくてはならない事と思った。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

本市においても、今年度初の試みで、市内学童クラブやあそビバに出張しての主権者教育に取り組み始めたところで、評判も良いとのことであった。そういった意味では、今回のテーマは大変参考にすべきものであるし、考え方の幅を広げるという点においても重要であった。

また、議会で行う主権者教育は、当事者である学校自体の協力が必要であるが、見えない壁があり、入り込みにくいものであることは、本市だけでなく全国どこにおいても同様であると再確認した。（学童やあそビバでは可能だが、教室にはなかなかガードが堅いといった点。）

今回、対象者に合わせた取り組みに繋げることができるよう、時間をかけて研鑽し、わかり易く伝える努力をしている事例が紹介された。先行して行われている事例を参考にしながら、定められている教育課程の中で、学校教育とは切り離すことが重要で、「主権者」を育成するために「教育課程」とは別の、「議会人」として調布の子どもたちを次代の担い手として、政治を自分事と考えられるよう育成していくことが重要と感じた。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	宮本和実

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

令和６年度全国市議会議長会研修フォーラム　令和６年１０月９日・１０日

主権者教育について

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

初日は４名のゲストによるパネルディスカッション、二日目は３議会からの報告があった。

全国市議会議長会では、令和５年１２月に主権者教育の推進に関する決議を行っている。議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することを目的にしている。そして、いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取り組みに対する支援を講ずることとしている。

その状況を踏まえ、様々な意見がパネリストから出された。

法政大学教授の土山氏からは、議会が教育をするべきなのか？公平に全ての学生に教育できるのかという課題を提示した。本来議会の役割は、学生からの意見を聞きそれを施策に反映できるかどうかを考える場であるのではないか、様々な意見を交換することが大切であるという内容であった。そして、その意見が反映された時に議会との信頼関係が生まれ、議会に関心と興味が沸き投票率にも繋がっていくのではないかという意見であった。総務省主権者教育アドバイザーの越智氏からは、若者は政治に関心がないのではなく参加しても意味がないと思っているのでは。政治家との交流を増やし、自分のアイデアが反映されるかもと感じられる機会を増やすことが大切という話があった。読売新聞社の渡辺氏からは、若者に未来を考えさせることが大切であり、自分はこうありたいという未来のためには何が必要か？そこに政治に期待してもらえ

るような関係を作ることが大切ではないかという内容であった。

二日目は、各議会の取り組みが紹介された。伊那市議会では、H３０年の選挙では無投票となり、議員のなり手不足に危機感を抱く。その対策の一つとして、若い世代特に高校生に議会への関心を高めてもらい議員を目指す若者を増やそうと考えた。そして、高校生の議会傍聴や意見交換等の企画を決定し実行した。この取り組みを継続する中で、高校生からの意見や提案が出るようになり、請願も提出された。交流を増やすことで議会を身近に感じ議会の権能を理解できたことによる成果と考えているとのこと。

四日市市議会では、中学・高校・大学と幅広い対象者に向け出張議会の提案を行い、「ワイ！ワイ！GIKAI」と名付け開催が始まっている。開催した学校ではテーマを分けてグループごとに内容と感想を発表する。その後所管委員会において出された論点などを精査し、報告書として教育委員会や開催校へ提出するという流れを作り生徒たちの関心を集める努力をしている。また、市議会だよりもこども号を発行し小学生でもわかるような広報にも努めている。山鹿市市議会では、小学生を対象に出前議会の形を作り、先ずは市議会の役割や選挙の仕組みなどを伝えている。

以上の各市議会における取組は、選挙や議会に関心の無い若い層へどのようにアプローチをすれば良いかのヒントをいただけたと思う。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

今回のテーマである「主権者教育」について、大切なことは教育ではなく意見交換をすることだと思う。議会が平等に教育をすることは無理であり、様々な層の市民から意見を聞き市政に反映することが、市民の関心と期待に繋がり、投票率向上にも寄与すると思う。また、広報の仕方などにも工夫が必要と感じた。調布市議会においては、年２回の議会報告会を開催している

が、参加者も大きく変化することなく開催が継続されている。少し視点を変え、今までアプローチ出来なかった層を対象に意見交換出来る機会を作る努力が必要と思う。今回は、各市議会の取り組み状況をお聞きすることにより、その苦労話や成功体験を実感出来たことは大変良かったと思う。

第３号様式(第４関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴木宗貴

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第１９回　全国市議会議長会研究フォーラム

「主権者教育の新たな展開」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

①パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」

地方議会での無投票当選や投票率の低下が深刻になる中、地方議会が主権者教育に取り組むにあたっての課題が示された。

地方議会が行うにあたっては、教育機会の公平性と政治的中立性の担保と二元代表制における地方議会の役割の理解促進が大きな課題であり、ともすると、行政の行うまちづくりミーティングの児童生徒版が、議会が行う主権者教育となりがちで、児童生徒の意見を議会が集約して市に伝えるという形をとっているところもある。

そもそも、地方議会が主権者教育を行うことに否定的なコーディネーターの意見があり、例えば、行政が行う子ども議会と、議会が行う子ども議会が同じであるなら、議会が行う必要はなく、全国で統一してマニュアルを作成し、それをもとに行う形の提案があったが、望ましい形であろうと思われた。

②課題討議「主権者教育の取組報告」

主権者教育の基本となる生徒会選挙において、立候補者が居ない、そもそも生徒会役員のなり手が居ないという状況があり、３議会の取組が報告されたが、まず、自分たちの学校を良くするためにということから、選挙の手法も含めて入っていくことが必要なのではと感じた。

夏休みの自由研究として、夏休み期間中いつでも議会を訪ねたら、議員が対応する取り組みは、非常に興味深いものであり、本議会でも取り組みやすい事業だと感じた。

主権者教育と「教育」が付いているが、地方議会が行うにあたっての、意義や目的、手法がまだ手探りの中で、児童・生徒とともに議会も学びながら、受け入れられるプログラムを作っていく必要を感じた。

第３号様式(第４関係)

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）
本市の学校教育において、地方議会の二元代表制が児童・生徒にどのように教育され、理解されているのか、また、生徒会の状況について調査研究したい。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大須賀 浩裕

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第19回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡
パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」
課題討議「主権者教育の取組報告」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

菅義偉元内閣総理大臣の基調講演が予定されていたが、衆議院解散のため急遽中止に。楽しみにしていたのに残念だった。
「主権者教育の新たな展開」をテーマにパネルディスカッションと課題討議が行われた。
日本財団が実施した「18歳意識調査」によると、「自分で国や社会を変えられると思うか」の問いに「思う、どちらかといえば思う」と答えた割合は、アメリカ 65.6%、イギリス 56.1%、韓国 60.8%に対して、日本は 45.8%。「社会のために役立ちたいと思うか」の問いでは、アメリカ 78.4%、イギリス 77.7%、韓国 71.1%に対し日本は 64.3%となっている。こうした報告を聞くと子どもたちに主権者教育が必要だと改めて感じる。
一方、「主権者教育は基本的にシチズンシップ教育であるべき」との考えに大いに賛同する。
11 月にアメリカの大統領選挙が行われた。日本の選挙との大きな違いは、選挙運動に多くの国民が関わっていることだと思う。日本では選挙運動に関わる人はどちらかと言うと「もの好き」と思われがちだと感じる。国政・都政・市政各種の選挙運動に参加し、なおかつ、日頃の政治活動にも参画することがいかに重要であるかをシチズンシップ教育で多くの国民・市民に分かってもらいたいと強く思う。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

会場の大ホールの座席が旧式で狭くて足が痛くなった。トイレにはウォシュレットが無かった。議長会フォーラムの会場は一定の設備水準を作ってほしい。